
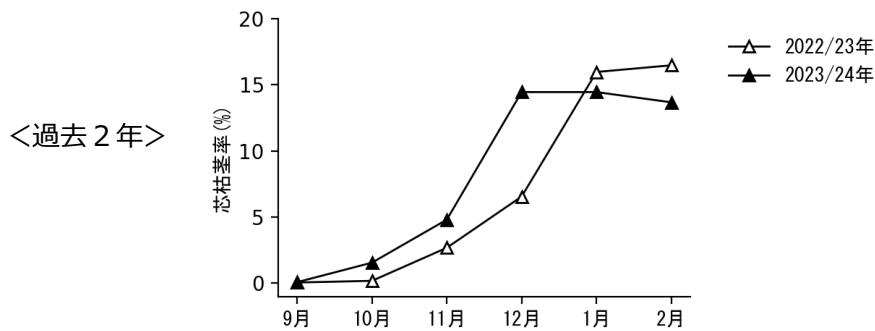
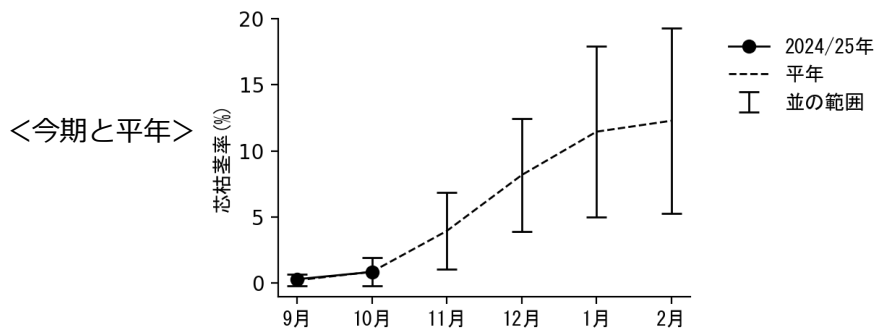


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	↗		
		11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


芯枯莖率の推移 (夏植え)



・発生ほ場率60.0% (平年 : 39.7%)

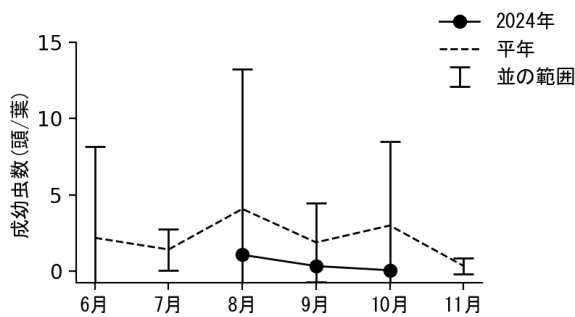
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・莖葉への乳剤等の散布は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

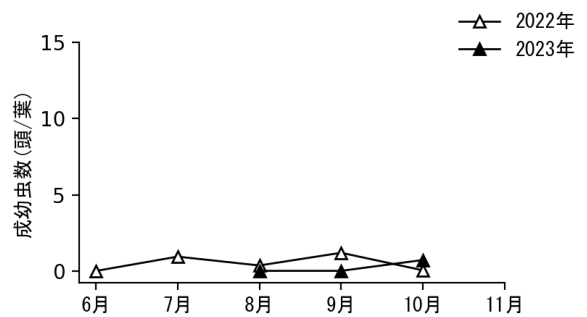
作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	10 月からの増減傾向	↘	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

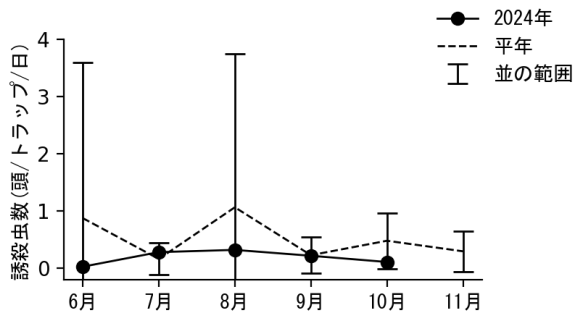
葉当たり成幼虫数の推移 (今期と平年)



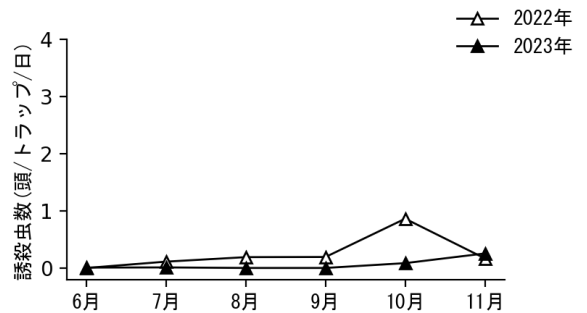
葉当たり成幼虫数の推移 (過去 2 年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (今期と平年)



トラップ当たり誘殺虫数の推移 (過去 2 年)




・発生施設率60.0% (平年 : 68.8%)

防除のポイント

- ・ 不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・ コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

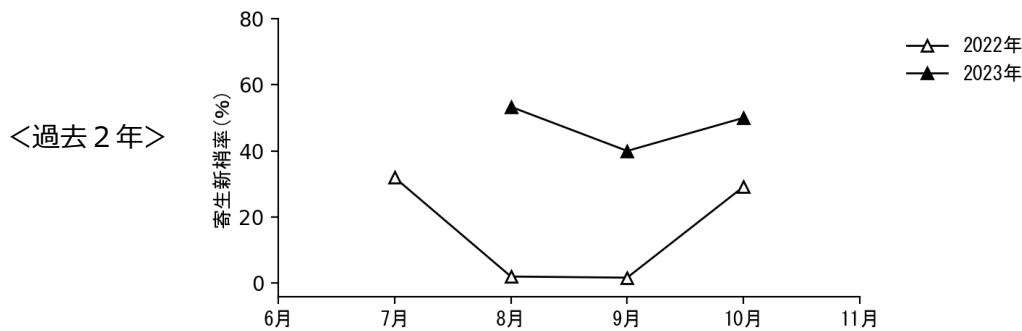
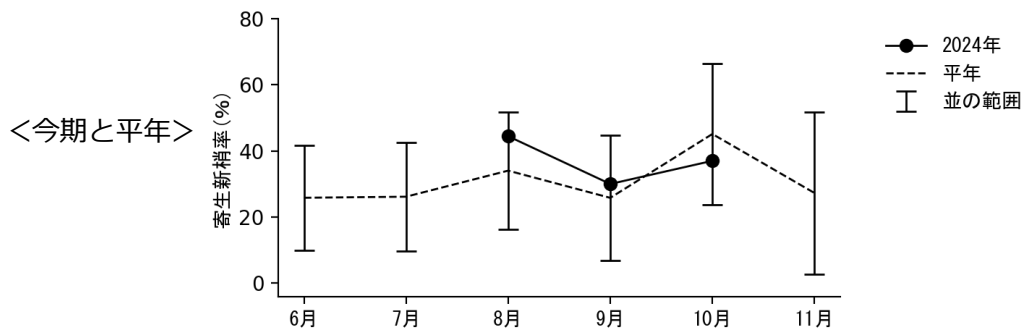


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	宮古群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ			
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並		
予報	10 月からの増減傾向	↘		
	11 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)		

調査結果

寄生新梢率の推移




・発生施設率100% (平年 : 68.8%)

防除のポイント

- ・繁殖スピードが極めて速いと考えることから、被害が発生した新梢部は直ちに剪定し、虫が分散するのを防ぐためビニール袋に入れて処分する。
- ・幼虫は成熟すると新梢を脱出し、飛び跳ねて地面に落下し蛹化する。この時頭や服に付着して移動するのを防止するため、なるべくポケットなどの引っ掛かりの少ない服装を着用し、出入りの際によく払う。また、靴にも幼虫や蛹が付着している恐れがあるため、出入り口では靴の土も落とすようにする。

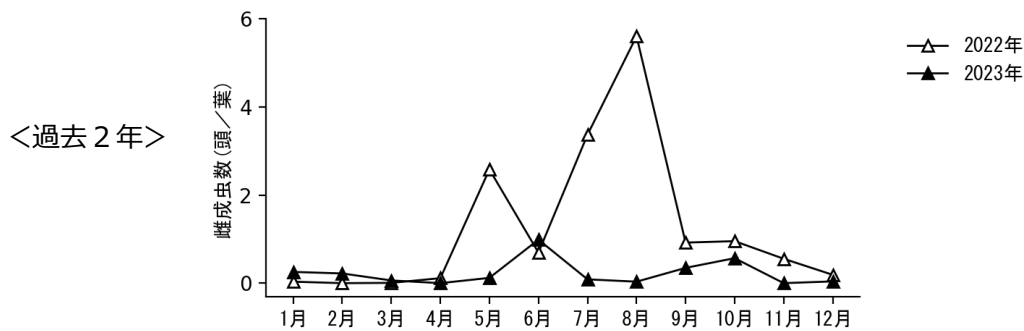
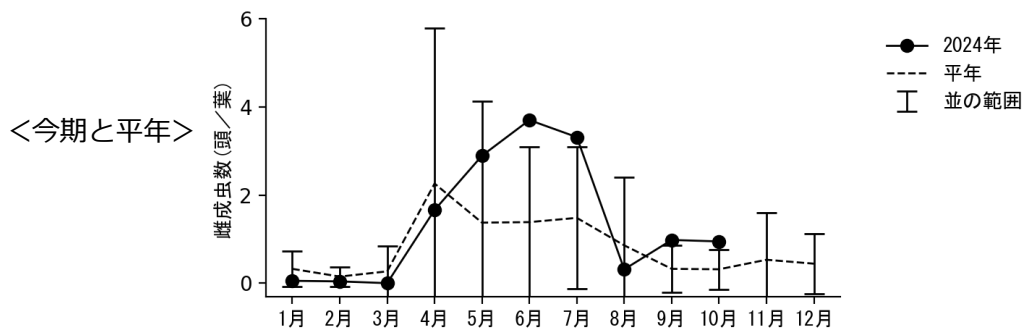


被害葉

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	10 月からの増減傾向	→	
	11 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率80.0% (平年：30.6%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

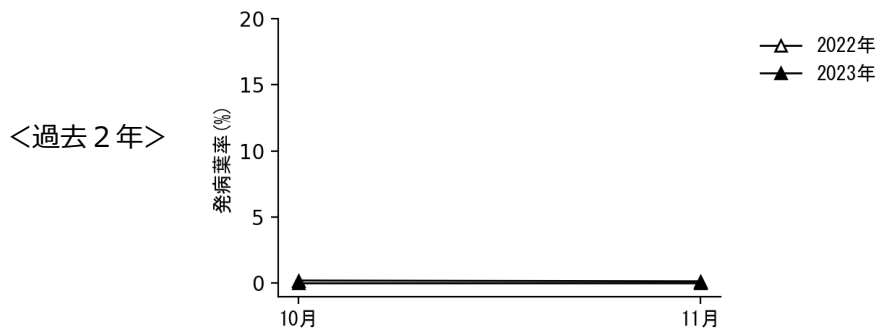
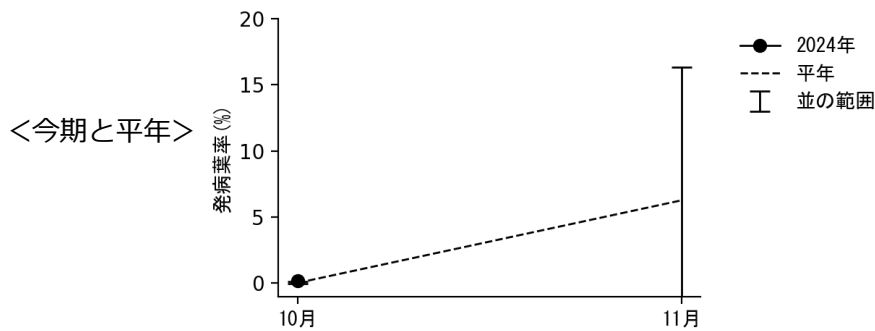


マンゴーツメハダニ

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予 報	10 月からの増減傾向	↗	
	11 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率20.0%（平年：2.2%）

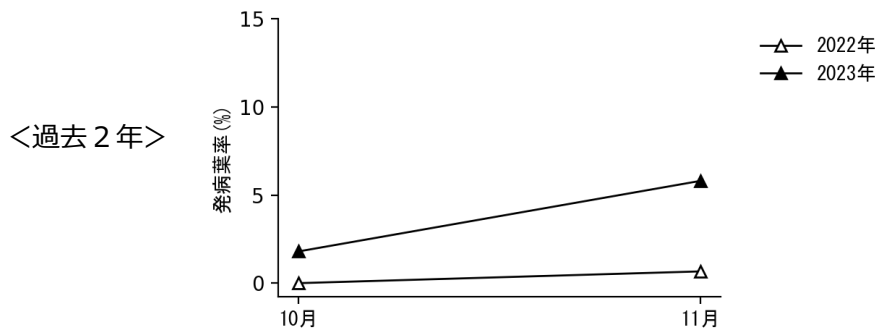
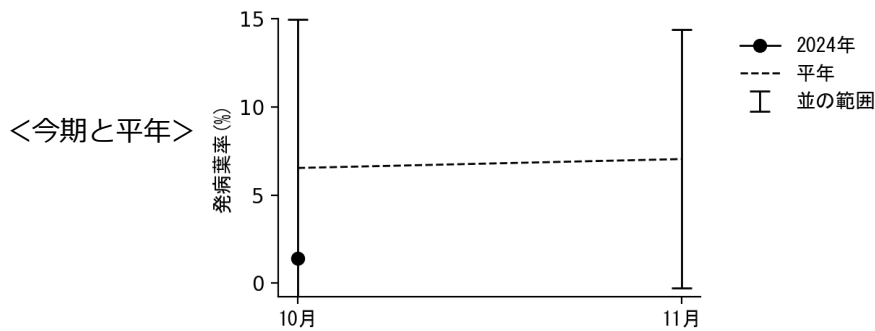
防除のポイント

- ・着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・窒素質肥料の多用を避け、予防散布を行う。
- ・薬剤耐性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	② 斑点・褐斑細菌病		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予報	10 月からの増減傾向	→	
	11 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（→）	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率80.0%（平年：24.4%）

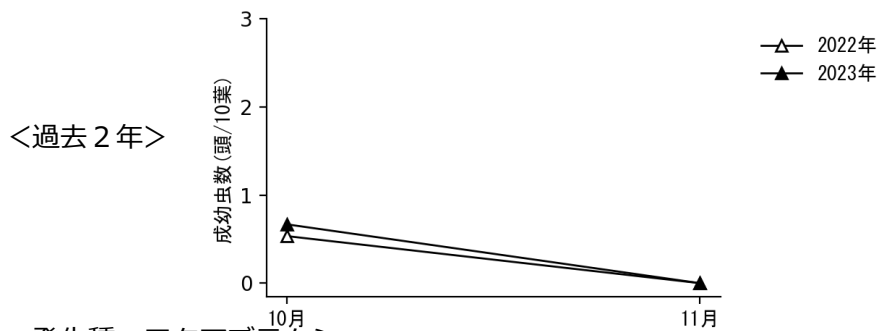
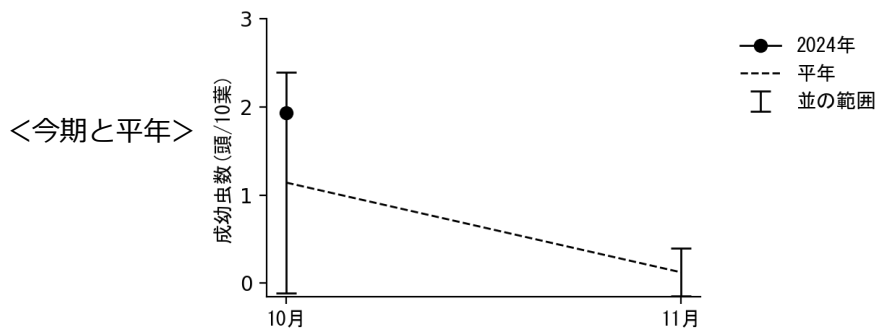
防除のポイント

- ・強風による葉ずれ等の傷口から感染するため、防風垣（ソルゴーや防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、強風降雨の後は薬剤散布を行う。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	③ アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報	10 月からの増減傾向	↘	
	11 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

成幼虫数の推移




- ・発生種：ワタアブラムシ
- ・発生ほ場率60.0% (平年：53.3%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ綸点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場周辺の雑草除去に努める。
- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

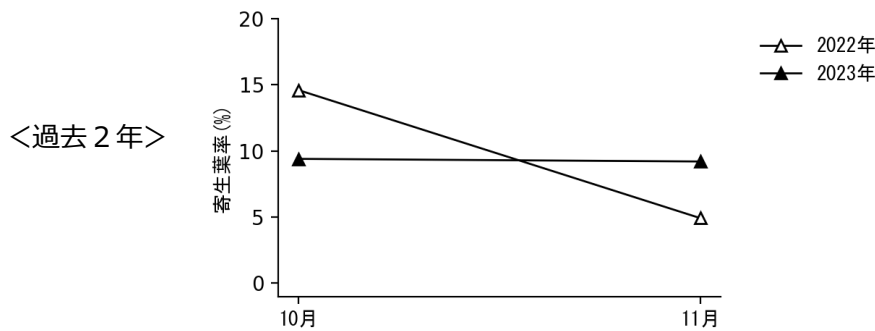
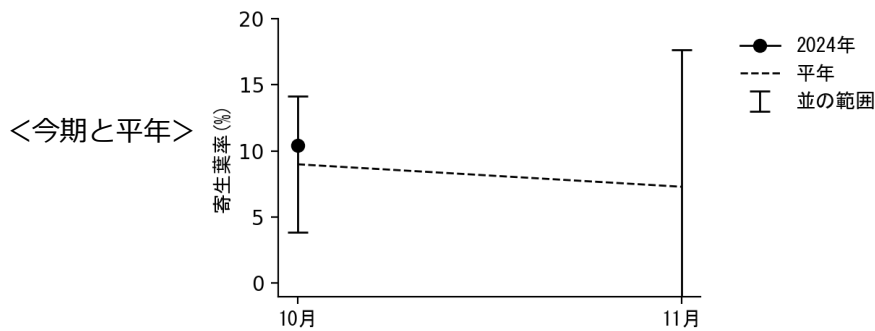


無翅虫

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
調査結果	10 月の発生量（平年比）	並	
予報	10 月からの増減傾向	↘	
	11 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↘）	

調査結果

寄生葉率の推移



・発生ほ場率100%（平年：75.0%）

防除のポイント

- ・多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・発生源となるほ場周辺の雑草除去に努める。
- ・幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。

幼虫の死骸
（農薬などで死亡すると黒色に変色）

